

刊行にあたって

2016年10月の調査¹⁾によると、CBCT（コーンビームCT, DVT）を保有していると回答した個人、法人立歯科診療所の割合は15.2%に達している。CBCTはインプラント治療のみならず、歯内療法、歯周治療、保存修復、口腔外科、矯正、補綴といった歯科治療全般に臨床応用され、精密で細かな単位での診断が要求される歯科において、その有効性は広く認識されてきていると思われる。

しかし、この極めて高度な医療機器を最大限使いこなすには、撮影、読像、診断、治療計画の立案、患者説明などにおいて、画像撮影技術や診断技術の研鑽など幅広い知識が必要だと思われる。そこで本増刊号では、第一線で活躍されている研究者や臨床医に、一般臨床医がCBCTを使用し、自身の臨床に最大限活用するために知っておくべきポイントをピックアップし、詳しく解説していただくことで、CBCT活用の“ガイド”となることを目的とした。

第1章ではCBCTの基礎、撮影と読像のポイント、第2章ではインプラントなど口腔外科領域における臨床での活用法、第3章では歯内療法、第4章では歯周治療、矯正治療、修復治療など幅広くCBCTを利用した臨床を供覧し、デジタルデータならではのさまざまなコンピュータシステムとの繋がりにも触れる構成とした。

本書が、多くの歯科臨床にCBCTを役立てていただける一助となれば幸いである。

1) 日本歯科医師会，日本歯科総合研究機構：歯科医業経営実態調査の集計と分析（個人・法人立歯科診療所—平成28年10月調査—，2017.

2018年3月
編集委員一同